

.....エコウイングあかし「自然グループ」のご紹介.....

エコウイングあかし(明石市環境基本計画推進パートナーシップ協議会)とは

「エコウイングあかし」は、明石市環境基本計画を推進していくための組織で、正式名称を「明石市環境基本計画推進パートナーシップ協議会」といい、従来の行政主導ではなく、市民・事業者・行政の三者がそれぞれの役割を持って、効果的に環境基本計画に掲げるリーディングプロジェクト(LP)を実践していくためのパートナーシップ組織です。

●リーディングプロジェクト(LP)

環境基本計画の中の先行的な取り組みで、市民、事業者、行政の三者が協働して創りあげ、実践していくものです。全部で13のプロジェクトがあり、ライフスタイル、エネルギー、自然に関する3つのグループに分けられます。

LP8:水でつながる明石の自然プロジェクト

●明石の代表的な自然である「水」（海、川、ため池、水路…）の環境を改善し、コウノトリがやってくるような自然環境を明石に作ります。

LP9:明石に「ふれあいの里山」を復活させよう！！ IN金ヶ崎公園

●夏休みにカブトムシやクワガタを捕まえた思い出。ずっと明石に残しましょう。

LP10:地産地消あかし流＝えこあぐり

●地産地消って明石でもやってるの？できるの？環境とどんな関係があるの？

LP11:みどりのコーディネータープロジェクト

●まちにみどりを増やしたい市民と行政の緑化施策をつなぎます。

LP12:“古(いにしえ)の今”を次世代につなぐ「明石のよいところ」プロジェクト

●私だけが知っているんじゃない「明石のよいところ」！

LP13:自然環境ナビ

●たくさんある明石の自然・天然資源情報をもっと見やすく、もっとわかりやすく。

写真提供：岩澤平勝、内田博、大西晶三、川島幸夫、川添真理子、河野利一、田中正三、長尾高明、丸谷聡子

執筆・編集：岩澤平勝、内田博、川島幸夫、河野利一、田中正三、長尾高明、丸谷聡子

イラスト：丸谷聡美

デザイン：川添真理子

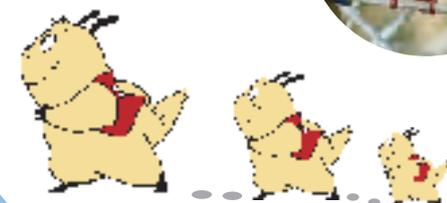


発行/エコウイングあかし「自然グループ」

【事務局】明石市環境部地球環境課
〒673-0882 明石市相生町2丁目5-15
TEL. 078-918-5029 FAX. 078-918-5107



知りたい！
感じたい！
明石の自然 歩き隊！！



エコウイングあかし「自然グループ」

明石市 ●●●

明石市は東経135度の日本標準時子午線上にあります。また、瀬戸内海に面しており、明石海峡をはさんで淡路島を眼前に臨むことができます。気候は温暖で、古くは万葉の歌人「柿本人麻呂」によって多くの歌が詠まれた風光明媚な地です。さらに、阪神都市圏と播磨臨海地域、そして海を隔てて淡路・四国と結ぶ位置にあり、海陸交通のうえで重要な拠点であることから、古くから城下町・宿場町として発展してきました。

また、縄文の時代から人と自然が共生して仲良くくらしてきました。今も里山、農地、ため池、水路、川、海へと水の流れてつながる豊かな自然と文化が、たくさん残っています。

そんな私たちの大好きなまち“明石”の宝物探しをしようと、エコウイングあかし・自然グループでは、「明石の自然歩き隊」を3回にわたって行いました。歩いてみると、驚くほど、たくさんの発見がありました。

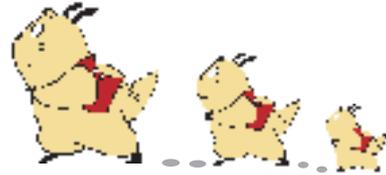
この冊子は、この3回の歩き隊で見つけた明石の宝物をルートごとに紹介しています。

ぜひ、みなさんもこの冊子を片手に明石の自然や歴史文化を味わってみませんか？



金ヶ崎公園～江井島海岸

第一弾



1

金ヶ崎公園



明石では貴重な里山の風情を残す市民公園です。8.5haの公園内は樹齢約70年のコナラやアベマキを中心とした森が広がり、そこには多くの昆虫や野鳥たちがすんでいます。

2

旧西国街道と景観



旧西国街道中央に太山寺道への分岐点があります。街道沿いには、旅人の休憩場所として小規模ながら町家が繁栄してきました。社寺中心に今でも、古民家が残っています。

3

寛政池記念碑



大久保町西島、魚住町中尾は、庄内掘割と大久保掘割のどちらの水路からも末端にあたり、水が十分ではありません。そこで、西島村のト部太郎兵衛をはじめ3名の庄屋が責任者になりました。新しいため池をつくることになりました。寛政12年に完成したので、寛政池と名付けられました。この池のおかげで、この3村では水に悩まされることはありませんでした。先人の功績をたたえ、この記念碑を建てました。

4

大池(西島)



一年を通して多くの生きもののすみかとなっています。特に、春～夏は、絶滅危惧種「オニバス」の西日本最大の群生地、秋～冬はカモなどの水鳥の飛来地として有名です。

5

社寺・酒蔵群と町なみ



旧浜街道沿いには、古民家集落群の町なみと酒造り繁栄の名残りが酒蔵周辺に漂い、同時に長楽寺の山門・本堂は、高僧行基の伝承が色濃く残っています。



コース	1	2	3	4	5	江井島海岸
魚住駅	金ヶ崎公園	旧西国街道と景観	寛政池記念碑	大池(西島)	社寺酒蔵群と町なみ	
11分	10分	30分	10分	15分	5分	

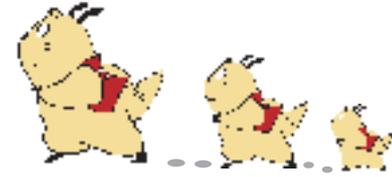
※時間は「明石の自然歩き隊」で歩いた時の所要時間を目安にしています。それぞれの見学時間は含まれていません。

3

4

江井ヶ島駅～八木遺跡公園 (八木海岸) 第二弾

第二弾



酒蔵見学&古民家のお話&海浜植物観察

1 西灘の酒蔵



江井島周辺は、良質な湧き水と米に恵まれ江戸時代から酒造りが始まり、神戸の灘に対して「西灘」と呼ばれていました。今も数軒の酒蔵が残っており、個性豊かな酒造りをしています。

(写真は【太陽酒造】)

1 酒蔵



2 海のゆりかご「アマモ」



アマモは浅い海に生える海草でイネに似た植物です。冬から夏にかけて江井島から八木の海岸に沿って「アマモ場」と呼ばれるアマモが集まった群落が海岸から見られます。

「アマモ場」は魚介類の産卵や、幼魚などの隠れ場となり、海岸生態系において重要な位置を占めています。

3 明石原人・住吉神社



腰骨発見地」の標識がたっています。昭和6年4月18日、考古学者の直良信夫が化石化した人骨を発見したところです。

明石原人の発見地について

現在は、ひっそりと「明石原人

4 瓦工場跡と古民家群



旧浜街道沿い北側に、寺を中心とした農村型古民家群があります。その長屋門には宝殿青石が使用されています。また、赤瓦の地場産業として繁栄していましたが、今は工場跡地が残っています。

3 明石原人・住吉神社



住吉神社について

八木の住吉神社は浜の散歩道を訪れる人たちの休憩所としても利用されていますが、ここから見る明石海峡、淡路島は素晴らしく、展望の穴場ともいえます。菅原道真が、太宰府に左遷される途中、景勝の地であったここで休憩されたといわれています。

5 八木海岸の海浜植物



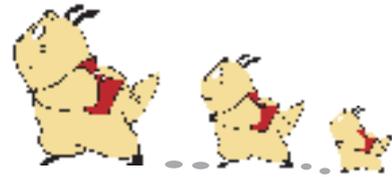
人工的に養浜された八木海岸の砂浜には、コウボウシバが群生し、ハマヒルガオやハマボウフウなどの海浜植物が生育しており、自然の回復力が感じられます。



大蔵谷旧宿場町～明石公園

第三弾

大蔵谷旧宿場町散策&明石の自然を空から感じよう！



4

明石公園



明石城跡を中心に作られた広さ、約54haの県立公園です。公園内には多くの植物、野鳥、昆虫などが生息し、市街地に貴重な自然環境を提供しています。

1

大蔵谷旧宿場町



江戸時代当時の、宿場町の風情を今に残す「商家・町家のうだつ・格子・虫籠窓」が見られます。駕籠(かこ)が行き交う面影を偲び、古(いにしえ)の町なみを体感できる場所です。

3

子午線標識



東経135度日本標準時子午線が通る明石市には多くの子午線標識があります。相生町の子午線交番前の石柱標識は、1910年の設置で、2010年で100周年です。また、1960年建設の天文科学館の時計塔も実は子午線標識です。

2

本陣跡・モチノキの古木



大蔵谷は、旧西国街道の海岸沿いの宿場町として繁栄しました。宿場の中心には大名が宿泊する本陣と脇本陣(大蔵会館が建っているところ)がありました。その間にあるモチノキの古木は、枝を切ると祟りがあるとわれ誰も手をつけずに残ってきました。

大蔵谷駅	1 大蔵谷旧宿場町	2 本陣跡・モチノキの木	3 子午線標識	天文科学館	4 明石公園
10分	10分	10分	20分	30分	

※時間は「明石の自然歩き隊」で歩いた時の所要時間を目安にしています。それぞれの見学時間は含まれていません。

水でつながる明石の自然



明石を空から眺めてみると、わずかにある濃い緑の部分が、明石公園、金ヶ崎公園、石ヶ谷周辺で里山の風情が残る数少ない場所です。そのふもとには、田園風景が広がり、ため池が点在しています。そして、ため池とため池、ため池と川は水路でつながり、明石の海へと豊かな自然が水の流れてつながっています。

里山

コナラ、アヘマキの雑木林に覆われ、秋にはドングリがたくさん実ります。地面の上に敷き詰められた落ち葉のじゅうたんの中にも森を支える小さな生き物がたくさんくらしています。ルリタテハやテングチョウ、カブトムシやクワガタなど多くの昆虫や、コゲラ、シジュウカラという小鳥たちも見られ、まとまった緑地の少ない明石にとって、さまざまな生き物の生命を育む大切な場所になっています。



田園・ため池



市内には、現在 109 個のため池があります。昔から農業用水を確保するためにたくさん造られましたが、自然の干潟や湿地がほとんどなくなってしまった現在では、水辺でくらす生き物たちの最後の砦にもなっています。夏は、オニバスやガガフタ、アンペライなどの貴重な水草はじめ、ヒシやハスなどで、一面、緑のじゅうたんを敷きつめたように美しく輝いています。10月に入ると、北の国から多くのカモがやってきます。春には、ヨシ原でパンやオオヨシキリが、水面では、カイツブリが浮き巣をつくって子育てをはじめます。

最近では、水質が悪くなったり、アメリカザリガニ、ブラックバス、ミドリガメ（ミシシッピーアカミミガメ）といった外来生物がたくさん入ってきて、元からあった生態系が崩れてしまうことが大きな問題になっています。

水路・川・海岸・海

水路の長さを合計すると、380キロにもなります。市内の隅々まで水の流れがつながるようにとの先人の知恵と生きる力を感じます。水路から川、海へと水の流れとともに明石の自然や歴史文化を肌で感じられる場所でもあります。

海岸には、アカウミガメが産卵、孵化しています。江井島～八木海岸にかけては、コウボウシバやハマダイコンなど多くの海岸植物が復活してきました。沿岸の浅瀬には、アマモの群落が自生し、水質浄化や魚の産卵場所、隠れ家として重要な役割を果たしています。



見慣れた風景も色々なことに気づいて歩いてみると、多くの発見や感動に出会えます。ぜひ、このマップを片手に『里山、農地、ため池、水路、川、海へと水の流れてつながる豊かな明石の自然いいところ探し』をして明石の大切な宝物を次世代へとつなげていきましょう！

“古(いにしえ)の今”を次世代につなぐ「明石のよいところ」

兵庫県下では、西国街道や湯の山・丹波道、生野道、龍野道、白川道などの旧街道を中心に街並みが広がり、生活と共に街道が栄え、様々な風土と長い歴史の中から自然環境に適した集落・まちが生まれました。



明石市内でも、旧西国街道や浜街道沿いには歴史的な名所も多く、旧街道沿いの社寺や古民家に恵まれた地域は、緑豊かな自然と共生し、まさに四季折々の自然観察と歴史散策のコースとして最適なところではあります。

多彩な森（鎮守の森など）や路地裏、土塀、生垣など、まちの歴史文化と自然環境が共存し、賑わいと多様なライフスタイルを生かした街並みの中で、人々の温かさに触れることができます。

これまでの「明石の自然 歩き隊」を実施した3つのコースのほかにも、源氏物語の舞台となった明石川河口付近の東



岸地区、本陣跡や旧家が並ぶ大久保地区の旧宿場筋、魚住地区の長坂寺から清

水にかけての社寺や史跡の道、江井島港から二見への浜の播磨路など、明石市内には歴史と自然が感じられる魅力的なコースがたくさんあります。



“古(いにしえ)の今”を次世代につなぐ取り組みでは、「兵庫ヘリテージ機構」が県下各地の歴史的な文化遺産（建造物・土木遺産）や街道筋周辺の古民家群を調査し、保存登録や古民家再生を行うなどまちづくりに貢献しています。

以前から「街道」では、自然に恵まれた名所や四季の花めぐりなど、多くの人々の人気を集め、街道散策がさかんに行われてきましたが、最近では高齢化社会を迎え、健康のためという理由で再び活発化してきています。

また、生涯学習で「ふるさと」をテーマにした散策がとり上げられ、「自然と共生した古民家、道標、地蔵、小さな祠など」の地域に息ついた宝物探しが注目されています。

地域特性と自然環境とが共生した街並みの中やわき道での散策時に、思わぬ宝物が見つかるかもしれません。「明石のよいところ」をみんなでいっしょに見つけに行きましょう。

